

## 基礎講座 (弥生墳丘墓)

寒川 史也

### 1. はじめに

現在の岡山県から広島県東部にかけての地域を差す古代以降の呼称で、吉備は中国地方では出雲とならんで有力な勢力の一つに数えられます。発掘調査などで出土する考古資料からみた場合、その領域が明確にイメージされるのは弥生時代後期も後半以降、楯築墳丘墓の築造やそれに伴う特殊器台や特殊壺の出現と分布といった出来事に関係してのことです。今回の講座のテーマは墳丘墓を中心とした内容となります。

### 2. 弥生時代後期の墳墓の例

岡山市北区御津に「みそのお遺跡」が所在していますが、弥生時代後期から古墳時代前期にかけての集団墓が展開しております。石列をもつ方形の墳丘に木棺を納めたと考えられる穴(墓壙)が複数掘られており、近隣集落における有力者グループによって営まれた墓域として捉えられます。

### 3. 吉備の王墓「楯築墳丘墓」

平面形は円形の主となる墳丘に突出部が2つ付属しており、全長は80m前後のものと考えられます。墳頂部における埋葬施設には木槨が採用され、箱形の木棺が納められていました。また、木棺内には多量の水銀朱、副葬品としては鉄剣や玉類などがみられます。特殊器台や特殊壺をはじめ、出土品からは墳墓において執り行われたさまざまな儀礼の形を読み取ることができます。

### 4. 墳丘墓からみた弥生時代の終わり頃の地域の結集

弥生時代中期の紀元前1世紀ごろ、北部九州以外の各地域においてクニと呼ばれるような政治的なまとまりが形成され始めました。弥生時代後期の紀元後1世紀になると、こうした動きはさらに進行します。弥生時代後期後半から末の2世紀から3世紀前半においては、各地の有力者は規模の大きい墳丘墓を造営しますが、墳墓における儀礼の内容を共通させることで、地域的な連合関係を成立させたものとみられます。

この頃の墳丘墓は岡山県南部では、後の備中南部にあたる地域に分布が集中します。これらの墳墓に採用された埋葬施設に目を向けると、竪穴式石槨や木槨の例がみとめられます。石槨は、周辺の讃岐・阿波・播磨といった地域でも同時期に出現しており、後の古墳時代の前方後円墳に取り入れられた竪穴式石槨とのつながりを考えさせられます。また、石槨や木槨などの埋葬施設に関連する遺構で特徴的な「石積み囲い」は瀬戸内沿岸に広がっており、ルート上の首長層の交流の活発さをうかがうことができます。

BC100	弥生時代	前漢	
		新	AD14 新の王莽が貨泉鑄造
AD100	古墳時代	後漢	AD57 奴国が漢に朝貢 AD107 倭国王が漢に朝貢
AD200		魏・呉・蜀	倭国大乱 AD238 卑弥呼が魏に朝貢
AD300		西晋 東晋 五胡十六国	

表 1 関連年表

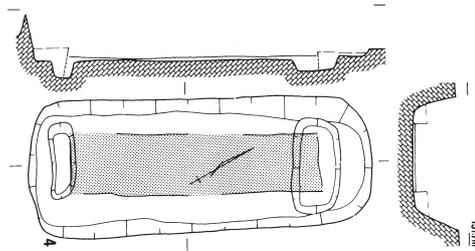
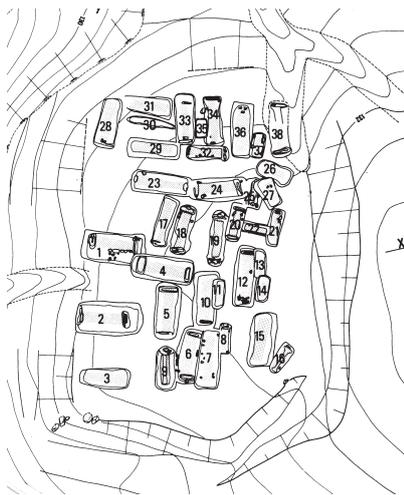


図 1 みそのお 47号墳墓  
全体図と第 4 主体部

< 図の出典 >

岡山県教育委員会 1993 「みそのお遺跡」  
『岡山県埋蔵文化財発掘調査報告』 87



図 2 周辺地域における弥生  
大型墳丘墓の分布

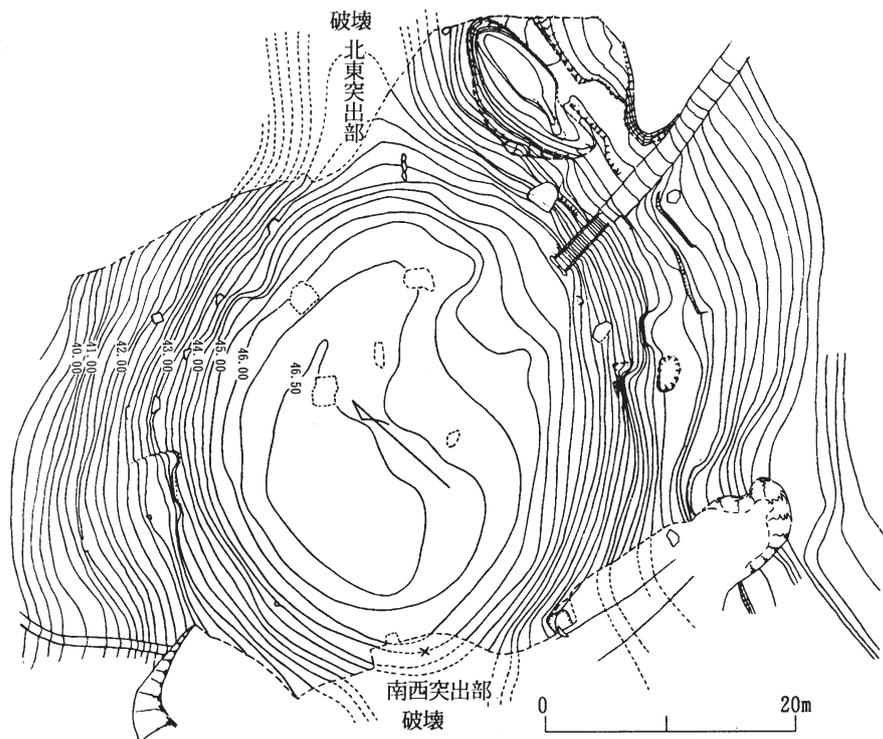


図 3 楯築弥生墳丘墓  
測量図

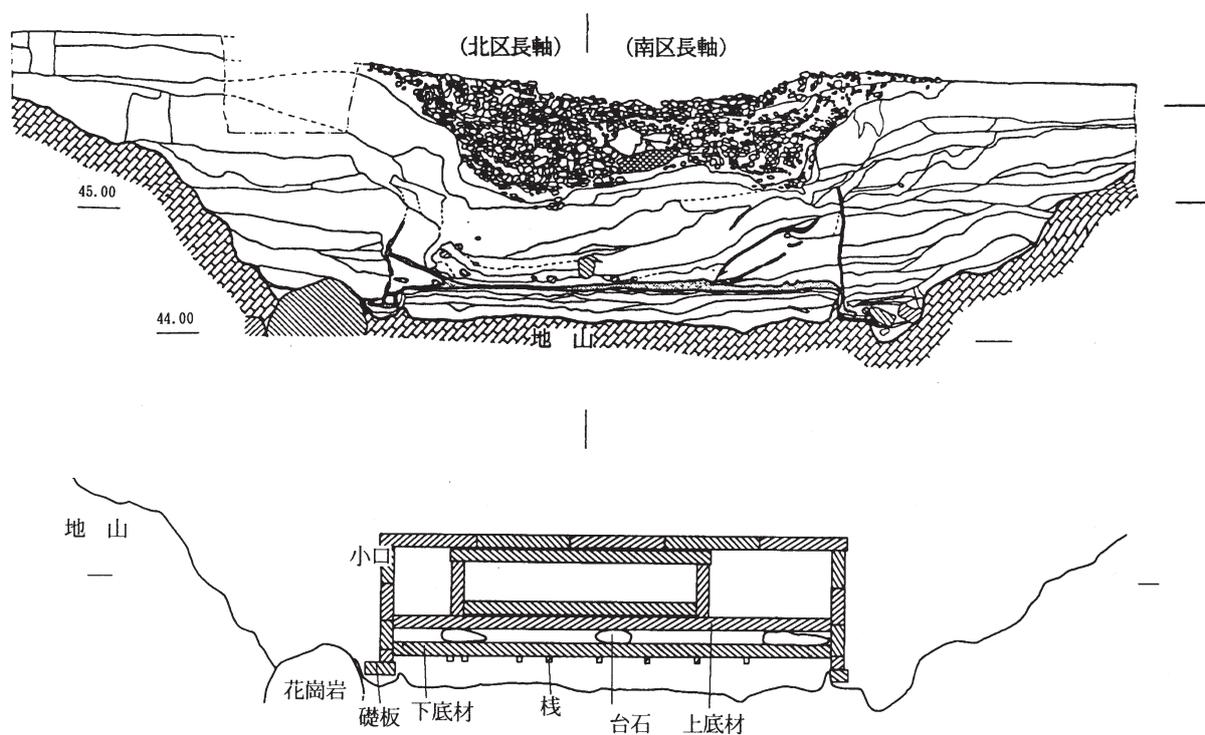


図 4 中心主体の断面図と  
推定図

< 図の出典 >

近藤義郎 編 1992 『楯築弥生墳丘墓の研究』  
楯築刊行会

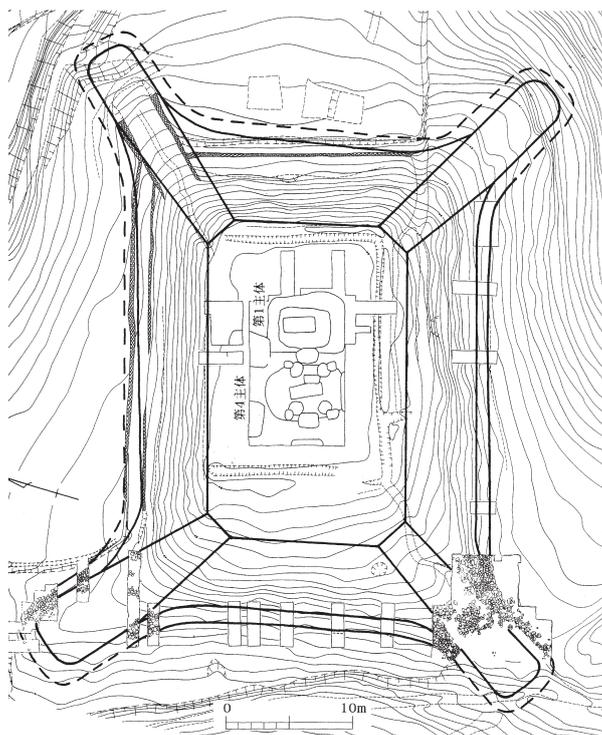


図5 西谷3号墓復元図

< 図の出典 >

島根県出雲市教育委員会 2006 『西谷墳墓群』  
— 平成14年～16年度発掘調査報告書 —

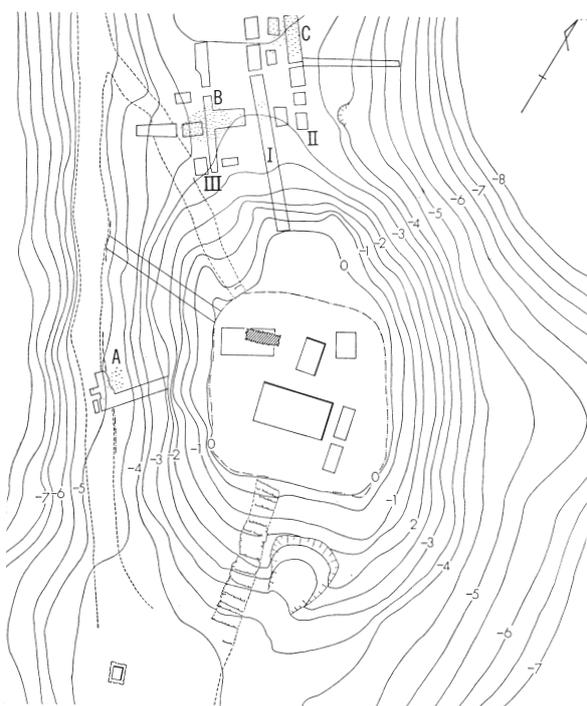
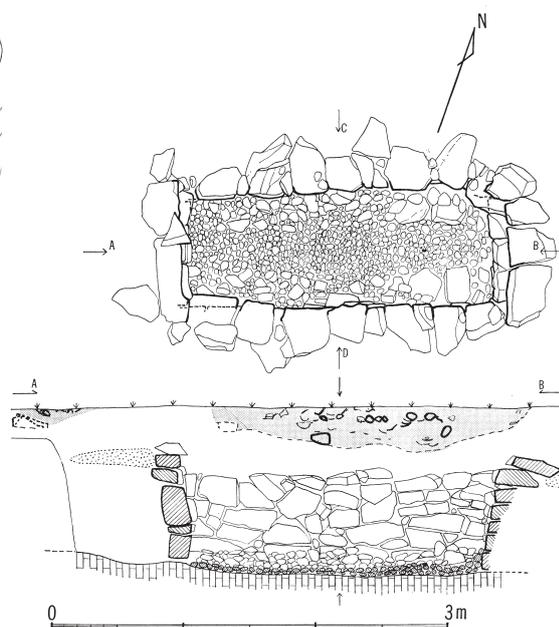


図6 黒宮大塚墳丘墓における  
墳丘と埋葬施設



< 図の出典 >

間壁忠彦・間壁葎子・藤田憲司 1977 「岡山県真備町黒宮大塚古墳」『倉敷考古館研究集報』第13号  
倉敷考古館

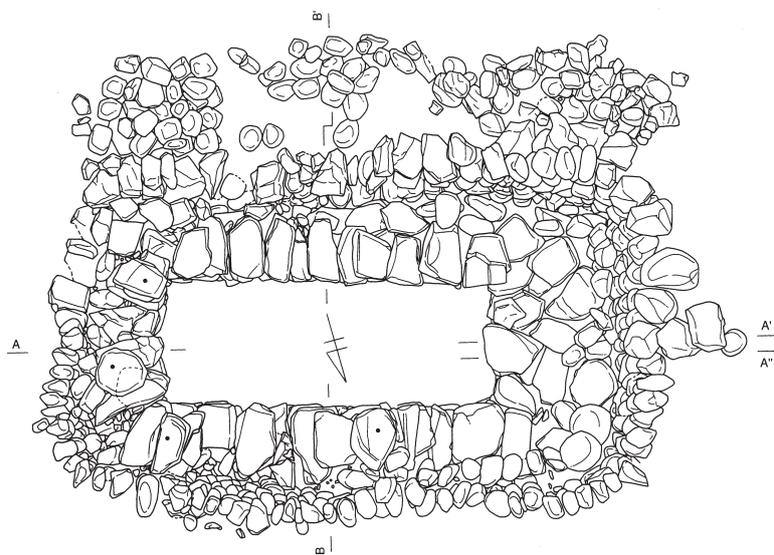


図7 綾部山 39号墓の埋葬施設

< 図の出典 >

揖保郡御津町教育委員会 2005 「綾部山 39号墓 発掘調査報告書」『御津町埋蔵文化財調査報告書』5

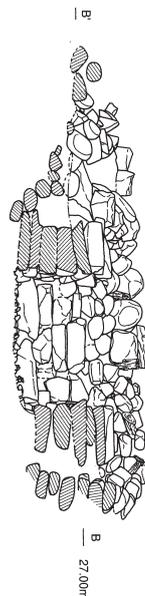


図8 梨ヶ谷第2号墓 a 主体

< 図の出典 >

広島市歴史科学教育事業団 1998 「梨ヶ谷遺跡発掘調査報告」『(財)広島市歴史科学教育事業団調査報告書』第22集

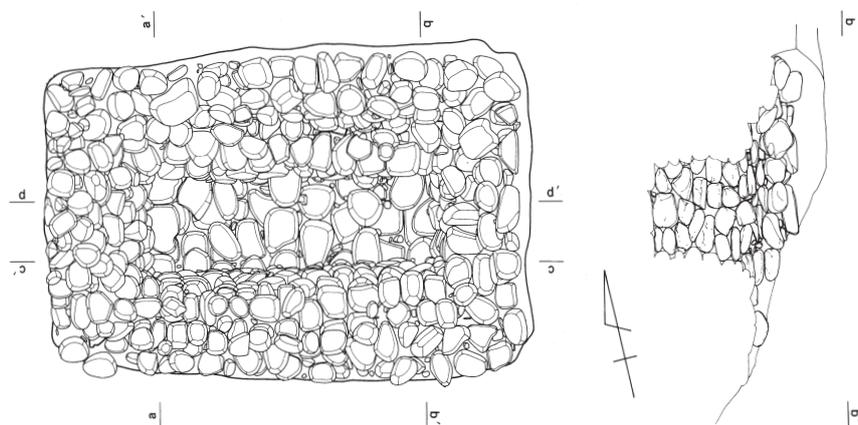


図9 埋葬施設に石積み囲いをもつ例